

# 肝臓病を考える病診連携の会 ～肝がん撲滅を目指して～

代表世話人 岡 正直  
宮本 京

日時／平成30年6月16日(土) 16:00～18:00  
場所／ヴェルク横須賀  
〒238-0006 横須賀市日の出町1丁目5番地  
TEL: 046-822-0202  
(横須賀中央駅 徒歩5分)

## 情報提供 16:00～16:10

「ゲーフィス錠5mg」 E Aファーマ株式会社

## 開会の挨拶 16:10～16:15

神奈川県内科医学会会長 宮川 政昭

## 一般演題 16:15～16:55

【座長】横須賀市立うわまち病院 消化器内科 部長 池田 隆明先生

I 「消化器内科以外の科におけるHBs抗原陽性判明者に対する診療実態調査」  
横須賀市立うわまち病院 消化器内科 部長 池田 隆明先生

II 「在宅看取り症例における消化器癌の実態について」  
小磯診療所 院長 磯崎 哲男先生

## 特別講演 16:55～17:55

【座長】横須賀市立うわまち病院 消化器内科 部長 池田 隆明先生

### 「肝発がんに関与する代謝性肝疾患としての脂肪肝 ～非アルコール性脂肪肝炎(NASH)を中心に～」

横浜市立大学附属病院 肝胆膵消化器病学教室 今城 健人先生

## 閉会の挨拶 17:55～18:00

肝・消化器疾患対策委員会 委員長 岡 正直

- ・当日は参加費として1000円徴収させていただきます。又、軽食をご用意しております。
- ・当講演会は日本医師会生涯教育講座の取得を予定しております。
- ・先生ご自身の交通費を、弊社にて負担させていただく場合がございます。  
その際は弊社よりご施設のルールに則り、個別に相談させていただきますので宜しくお願ひ申し上げます。

## 一般演題Ⅰ

### 消化器内科以外の科におけるHBs抗原陽性判明者に対する診療実態調査

横須賀市立うわまち病院 消化器内科

池田隆明、佐藤晋二、小宮靖彦、森川瑛一郎、秋間 崇

【背景】B型慢性肝疾患の治療としてのpegIFNの導入や核酸アナログ製剤の開発により、その予後は大幅に改善されてきた。

しかし、これらの治療適応でありながら、その恩恵に浴していない症例、また必要な経過観察が行われていない症例が多く存在する。今後は、C型慢性肝疾患と同様にこれら症例の掘り起しが重要な課題になると考えられる。

【目的】B型慢性肝疾患診療の実態を把握するため、院内の消化器内科以外の科におけるHBs抗原陽性者の診療実態を調査した。

【対象と方法】消化器内科以外の科で1年間に行われた肝炎ウイルスマーカー検査で、新規にHBs抗原陽性が判明した45例

(男性30例、女性15例、平均年齢63±14歳)を対象とした。血小板 $<15 \times 10^4/\mu\text{l}$ 、AST $\leq$ ALT、31U/L $\leq$ ALTのいずれかを満たす症例を推定B型慢性肝疾患(推定B-CLD)と仮に定義し、診療実態について検討した。

【結果】1) 消化器内科以外の科での新規HBs抗原陽性症例45例中で、推定B-CLDと考えられる症例は12例であった。2)

この内、消化器内科紹介受診となった症例(介入群)は5例(42%)であった。一方、消化器内科への紹介がない症例(非介入群)は

半数以上の7例(58%)であった。3) 介入群と非介入群に年齢、HBs抗原量、トランスアミナーゼ値および血小板数に有意差は認められなかった。

4) 紹介受診(介入群)の5例に消化器内科初診の14例を加えて解析すると、B型肝炎ウイルス関連肝疾患の診断を初めて受けた症例は8例で、この内6例は核酸アナログによる治療をその後開始されていた。

【結語】B型ウイルス性肝疾患について、C型ウイルス性肝疾患と同様に、院内連携システムの構築が急務であることが示唆された。

## 一般演題Ⅱ

### 在宅看取り症例における消化器癌の実態について

小磯診療所 院長 磯崎 哲男

小磯診療所では平成23年より癌症例の在宅看取りが急増している。

平成23年1月より平成30年4月まで7年4ヶ月の間に我々がお看取りした症例は1225症例におよんだ。そのうち癌症例は759症例(62.0%)であり、消化器癌は383症例(31.3%)であった。特に肝細胞癌は50症例(4.1%)であり平均訪問期間は85.12日であった

(最短は2日間、最長は489日間)。肝細胞癌の症例で自宅からホスピスへの入院は統計を取り出した平成27年以降2症例にとどまっており、在宅での看取り率は25症例/27症例(92.6%)と高率であった。在宅での緩和医療の進歩や自宅療養を希望する患者の増加により自宅であっても癌終末期を過ごすことができるようになってきている。

## 特別講演

### 肝発がんに関与する代謝性肝疾患としての脂肪肝 ～非アルコール性脂肪肝炎(NASH)を中心に～

横浜市立大学附属病院 肝胆膵消化器病学教室

今城 健人

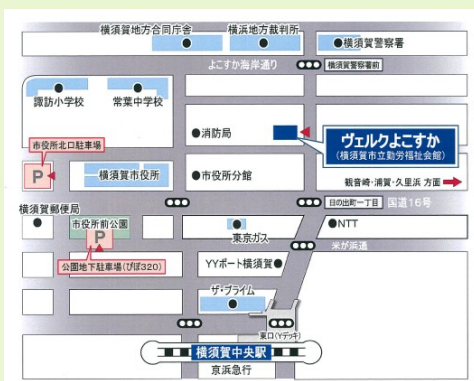
肝がんの主要な原因であるウイルス性肝炎は治療薬の進歩に伴い劇的に減少しております。一方では非ウイルス性の肝がん、いわゆる非B、非C肝がんは増加の一途を辿っております。国民のアルコール消費量はさほど変化がないところを見ると、非アルコール由来の肝がんが増加していることは疑いようがありません。非アルコール性脂肪肝疾患(Nonalcoholic fatty liver disease: NAFLD)は肥満、糖尿病などの基礎疾患と関与する肝疾患であり人口の20%前後が本症に罹患しているとされており、

そのうち、約1割が進行性の非アルコール性脂肪肝炎(Nonalcoholic steatohepatitis: 以下NASH)であり、

10年間で20%が肝硬変に移行するとされており、非アルコール由来の肝がんはこのNASHが多く関与していると考えられます。

本講演ではこのNASHについて、病態に関する基礎的検討から臨床的診断・治療まで、最新の知見も含めてご紹介させていただきます。

## 交通



ヴェルク横須賀

〒238-0006 横須賀市日の出町1丁目5番地

アクセス

【電車】京浜急行 横須賀中央駅 東口徒歩5分

【お車】有料駐車場10台分

(近隣にコインパーキングもあります。)